



2011(平成23)年10月19日発行

〔第69号〕

春季研究大会講演趣旨 荒井秀規氏 …… 2～3  
各分科会報告・等…………… 3～8  
各分科会今後の活動予定…………… 9～10  
計報…………… 10

事務局 神奈川県立新城高等学校  
岡崎 恭一  
〒211-0042 川崎市中原区下新城 1-14-1  
TEL 044-766-7456 FAX 044-752-7812

### 平成23(2011)年度社会科部会秋季研究大会および講演会

1 日 時 平成23(2011)年10月19日(水) 9:00～17:00

2 会 場 神奈川県立柏陽高等学校 横浜市栄区柏陽1-1

3 時 程 9:30～ 受付(会議室)  
9:45～9:55 開会のことば、諸連絡  
10:05～11:10 研究授業(各教室)

○歴 史：矢野 慎一(県立柏陽高校)  
「第一次世界大戦と日本」

○地 理：松崎 剛(県立柏陽高校)  
「北アメリカ(地誌)」

○現代社会：村松 剛 弁護士(横浜弁護士会法教育委員長)  
「学校で法はどのように教えられるのか  
～『幸福・正義・公正』の観点から～」

11:20～12:25 研究協議  
12:25～13:15 昼食・休憩

#### 【午後の部(多目的ホール)】

13:30～14:00 部会長挨拶 川上 信昭(県立麻溝台高校)  
来賓挨拶  
本部報告・各分科会報告・広報活動  
14:00～16:30 講演会(講演及び質疑応答)  
16:30 閉式のことば

#### 4 講演内容

- 【講師】：守屋 由紀 先生  
(国連難民高等弁務官事務所 駐日事務所広報官)
- 【演題】：『世界の難民問題、UNHCRの活動、日本の役割』

#### <講師プロフィール> 守屋 由紀(もりや ゆき) 先生

UNHCR駐日事務所 広報官

東京都生まれ。幼少を香港、メキシコ、アメリカで暮らす。獨協大学法学部卒。

住友商事、アンダーソン法律事務所を経て、

1996年より国連難民高等弁務官(UNHCR)駐日事務所。

2007年より現職。

## 2011年度春季研究大会講演会要旨

### 「相模・南武蔵の古代」

藤沢市教育委員会 荒井 秀規 先生



#### はじめに

相模国と武蔵国の南部からなる相模国に関して、ままだ指摘があるムサ国の上下分割説（ムサ→ムサ上・ムサ下→相模・武蔵）は、両国が東海・東山二道に分かれること、「サ+カミ」と「ム+サシ」の語幹に「ムサ」がなく、古墳文化にも相違があるとして否定した。武蔵は北関東の毛野の文化圏である。

#### I 相模と武蔵の国境

戸塚丘陵である国境（JR東海道線清水谷戸隧道・横浜市保土ヶ谷区境木地蔵）をとりあげた。国境だけでなく東海・東山の道境であること、武蔵国が東海道に編入されたのは宝亀2年（771）であることに留意する必要がある。それ以前は官道（駅路）の東海道は、記紀のヤマトタケル説話に見るように、足柄峠→県央部→鎌倉→横須賀市走水から東京湾を横断して上総国へと渡海していたが、1999年にその想定ルート上に4世紀中葉～後半の長柄桜山古墳群（葉山・逗子境に前方後円墳2基）が発見された。『古事記』によれば、三浦半島の古代豪族はヤマトタケル末裔の鎌倉別氏であることが問題となる。

#### II 相模国の国府・国分寺と郡家

国府の三遷説（海老名→平塚→大磯、小田原→平塚→大磯）と二遷説（平塚→大磯）に関連して、2004～5年に平塚市四宮（大住郡）で8世紀前半に遡る国庁協殿や国衛工房、東海道らしき官道が発見され、後者が有力視されている。

その場合に課題として、①国分寺（高座郡海老名市）と郡を違えて離れる理由、②存続期間と余綾郡（大磯町国府本郷）に移遷した時期と理由が問題となる。被災して移遷ならば、弘仁9年（818）や元慶2年（878）の大地震、将門の乱の戦火、治安3年（1023）頃の相模国守（相模の夫）館の火事などが注目される（『相模集』）。

相模国では鎌倉郡家（鎌倉市今小路西遺跡・御成小学校）、高倉郡家（茅ヶ崎市西方A遺跡・北陵高校）、武蔵国の県域分で都筑郡家（横浜市青葉区長者原遺跡）、橋樹郡家（川崎市高津区千年伊勢山台遺跡）が発見され、さらに豊島郡家（東京都北区御殿前遺跡）、榛沢郡家（埼玉県深谷市中宿・熊野遺跡）、幡羅郡家（同市幡羅遺跡）が発見された。他の郡家も推定地があり、今後が期待される。関連して評制史料である川崎市影向寺廃寺文字瓦「无射志国荏原評」（廃寺は都筑郡）、飛鳥石神遺跡「諸岡五十戸田皮カ□×」（久良郡諸岡里）が注目される。

#### III 都への道

都へ貢納した調庸物（田租は在地消費）について、相模・武蔵両国の特産品である豉（クキ。大豆とワカメの醸造品。調味料また薬品）ほかの荷札木簡が都城で多く発見されている。平塚市大会原遺跡では「旧鼓一」と墨書された大形カメ片が発見された。国衛工房で製造したのであろう。都へ運ばれた品物は各国の「調邸」に一時保管された。調邸の場所が特定されるのは相模国だけで、平城京東市の西隣にあり、後に東大寺に買収された。

天平10年（738）「駿河国正税帳」に東海道の往来がうかがえる。相模国関連では、相模国の橘子が上進され、余綾軍団長官や大住軍団次官が陸奥国の俘囚を駿河まで運送し、逆に任期を終えた相模国防人230人や病気で退役した御浦郡衛士が駿河国を通じて帰還している。

#### IV 防人をめぐって

『万葉集』の天平勝宝7年（755）武蔵国の防人

歌には、足柄坂（国字の峠はまだない）を歌ったものがある。当時、武蔵国は東山道であるから、東山道を碓氷峠越えて難波津へと向かうのが本来のように思えるが、宝亀2年の武蔵国の東海道への移遷の前に、実態として武蔵国内の駅路は東山・東海両道を兼ねていた。また、2007年に佐賀県唐津市中原遺跡から相模型坏が出土した。九州に赴任した相模国防人の物的資料として注目される。

## V 北へ

相模・武蔵の人々は対蝦夷戦争にも徴発された。宮城県大崎市三輪田遺跡出土の木簡には「大住団」の文字と兵士の名が記されている。大住軍団が遠征、駐屯したのであろう。陸奥国色麻郡に相模郷（宮城県色麻町）があるのは、相模国からの移民であろう。また、宮城県多賀城跡出土の漆紙には「御浦郡」の文字が確認されている。神奈川県の人々は西に北にと移動したのである。

## おわりに

最後に武蔵国防人歌への疑問を述べた。防人とその妻の組の歌が『万葉集』に載るには武蔵国だけであるが、堅穴住居に住む農民夫婦のものとは考えられない。武蔵国府における国司らの宴席での贈答歌を防人に託した可能性を考えたい。また、東国防人歌に共通する「大君の命かしこみ」の定型歌は、農民の日常の歌ではなかろう。東国古代を考える素材としての防人歌・東歌には再検討が求められている。（上鶴間高校 鍵和田武彦）

## 歴史分科会活動報告

### 歴史分科会高大連携の試み

世界史研究推進委員会を中心に実施しているこの試みも今年度で5回目を迎えることとなりました。今年度は、8月1日(月)～3日(水)の3日間、昨年と同じ栄光学園高校を会場に行われました。午前は生徒への講義、午後は参観者とのシンポジウムという形式も例年どおりのものです。今年度のテーマは、「ウェスタンインパクトをどう教えるか」、近代におけるヨーロッパ勢力のアジア進出とアジア側の対応を広い視点で見直すという内容で、受験ニーズに対応しながら学会の新しい研究動向も紹介されました。各日のテーマ・講

師・参加者は次のとおりです。

1日目「ロシアのアジア進出と東アジア世界」

講師：石橋 功（県藤沢総合）

杉山 清彦（東京大学）

生徒56名、教員48名、大学・出版社15名

2日目「イギリスのアジア進出と南アジア世界」

講師：神田 基成（鎌倉学園）

秋田 茂（大阪大学）

生徒46名、教員40名、大学・出版社14名

3日目「フランスのアジア進出と

東南アジア世界」

講師：福本 淳（栄光学園）

桃木 至朗（大阪大学）

生徒39名、教員42名、大学・出版社14名

午前の部の模擬授業では、栄光学園高校の生徒に加え、県立湘南高校・横須賀高校、横浜市立みなと総合高校、湘南白百合学園高校、日本大学藤沢高校の生徒諸君も参加しました。

午後の研究討議・意見交換では、県内の先生方の他、他府県からも、東京都立石神井高校・新宿高校・城北高校・千早高校、中央大学杉並高校、大阪府立池田高校・園芸高校、静岡県立浜松北高校の先生方。また大学関係では、講師の他に、大阪大学から岡本・岡田、東京大学から佐藤・内田・中森、また日本学術振興会からは長谷部の各先生方にもご参加いただき、ウェスタンインパクトの捉え方とその教材化、他科目－日本史など－との連携のあり方等をめぐって、連日活発な議論が交わされ、大変有意義な研修となりました。

各先生方におかれましては、校務ご多忙の折とは存じますが、引き続き、この高大連携の試み、および世界史研究推進委員会を初めとした、社会科部会各委員会への参加を、重ねてお願いいたします。（寒川高校 根岸 洋史）

### 日本史研究推進委員会

#### 柏陽高校日本史サマーセミナー

今年も8月23日と24日の2日間、夏季恒例の柏陽高校日本史サマーセミナーが開催されました。今年で5回目の実施となります。今回は、柏陽高校が県立高校教育力向上推進事業「伝統・文化教育課程研究校（日本史必修化）」の研究指定を受けていることから、23日はその公開授業を兼ねて行われました。日本史必修化の研究指定とは、平成25年度より実施される県立高校日本史必修化に

に伴い、県独自科目「近現代と神奈川」の実施研究を行うことで、柏陽高校では3年生の自由選択科目の1つとして設置され、今年度6名受講がしています。今回はその夏季補講として、23日に下記の通りのテーマで公開授業が行われました。そして24日には、今までのサマーセミナーと同様に受験対策授業が行われました。

8月23日（火）

I. 「近現代と神奈川」

（東アジアと日清・日露戦争）」

授業者：神奈川県立柏陽高等学校

矢野 慎一

II. 「近現代と神奈川」

（資本主義経済と社会の変容）」

授業者：神奈川県立大磯高等学校

小田 貞宏

8月24日（水）

I. 「近現代日中関係史」

授業者：逗子開成中学・高等学校

杉山 登

II. 「近現代沖縄史」

授業者：神奈川県立上鶴間高等学校

児玉 祥一

2日間とも、午前に生徒と教員対象の授業（90分）が2本ずつ行われ、午後は教員対象の研究協議が行われました。多くの先生方にご参加頂きましたが、特に「近現代と神奈川」への関心の高さがうかがえました。「近現代と神奈川」には実施に当たってのカリキュラム上の位置づけや教材やプリントの内容、授業の進め方などについて質問が集中しました。両日とも意義のある研究協議だったと思います。

23日には研究協議終了後、柏陽高校周辺の史跡



柏陽高校前の忠魂碑

見学会が行われました。忠魂碑や戦没者慰霊碑、第一海軍燃料廠関係の遺構を見学することができました。（柏陽高校 矢野 慎一）

## 史跡踏査委員会

### 第50回夏季県外史跡踏査

50周年の平成23年度夏季県外史跡踏査は新潟県（新潟港、新発田、新津）方面「古代から現代までの新潟港と石油採掘、駐屯地・新発田を訪ねる」と題して8月17日、18日に行われた。



旧新潟税関庁舎（国重文）

最初の踏査地、新潟県政記念館（国重文）は明治16年（1883）に建てられた現存最古の県会議事堂遺構である。伊東祐之先生（新潟市歴史博物館副館長）と合流。バス内で新潟町の成り立ちを聞いた。博物館ではまず明治2年（1869）築の擬洋風建築、旧新潟税関庁舎（国重文）へ向かう。昭和40年（1965）までここで税関業務が行われていた。棧橋には、復元された北前船「みちのく丸」が昨日から寄港しているが、この時沖合8kmで展帆航行実験中のため目にする事が叶わなかった。本館常設展示は越後平野と「水」をテーマとする。「頻繁な洪水と湿地帯が一面に広がるこの環境を抜きにして、越後の歴史を考えることはできない。」と、伊東先生の言葉が感慨深い。

開港地新潟の歴史を学んだ博物館を後にして柳都大橋を渡る。右手に昭和4年（1929）竣工の3代目萬代橋、左手の新潟西港には、万景峰号が発着した中央埠頭が見える。信濃川右岸の新発田藩領沼垂は、対岸新潟の隆盛に圧された。大化3年（647）に淳足柵が設置されたのは物見山付近の砂丘上との説が有力だが、確たる証拠はない。

昭和シェル石油新潟輸入基地では担当者から当地の歴史を聞いた。昭和9年（1934）新津石

油新潟製油所建設、昭和17年（1942）昭和石油となり本格的稼働、昭和39年（1964）新潟地震で日本初の大規模コンビナート火災が発生、昭和60年（1985）製油所としての機能を停止、石油製品輸入基地となった。全体的にこの地域の石油は枯渇状態にある。そこで自然エネルギー発電事業が注目され、昨年8月に雪国型メガソーラー発電所建設が実現した。

享保16年（1731）に阿賀野川河口となった松ヶ崎浜を通り、福島潟湖畔の環境と人間のふれあい館に到着。映像鑑賞後、館長の塚田眞弘先生から1階の阿賀野川水系ジオラマ上で、原因企業である昭和電工鹿瀬工場周辺の地形や、流域での水銀中毒発症の様子について説明を受けた。昭和3年（1928）に鹿瀬ダム・鹿瀬発電所が竣工し、翌年その電力を使用する昭和肥料が工場設立、昭和11年に水銀を触媒としたアセトアルデヒド製造を開始した。その後昭和30年代後半に生産量が爆発的に増加した結果、昭和40年（1965）の公式発表以来、692名（2007年現在）が認定を受ける新潟水俣病の被害へと繋がった。

2日目の踏査は会津街道上の要地五十公野から始まった。新潟から移築された旧県知事公舎を見学し、講師の田中耕作先生（新発田市教育委員会教育部生涯学習課文化行政室室長）と合流。五十公野御茶屋（国名勝）は明暦3年（1655）に3代藩主宣直が建て、参勤交代の際の拠点や藩主の茶会に用いられた。会津街道を西へ向かい新発田市中心部の清水園に到着。藩主下屋敷で、明治初期に沢海の豪農伊藤家がい取り料亭に利用した。寛文6年（1666）築の数寄屋建築書院と続く庭園は国指定名勝とされている。酒蔵を移築した資料館は考古、民俗、新発田藩関係資料が充実している。足軽長屋（国重文）は天保13年（1842）築で、実際には足軽より下の御門番組役人らの住居。一棟八戸の茅葺き平屋建長屋で、一戸九坪六畳間二部屋である。当時の下級役人の生活を垣間見た。

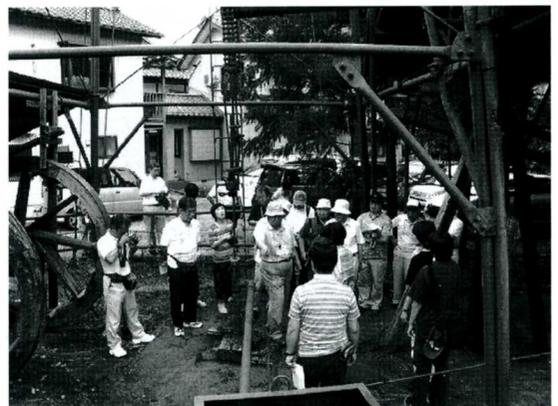
新発田城は慶長3年（1598）加賀大聖寺から6万石で入封した溝口秀勝が、新発田氏の城跡を取り入れ築城開始、宣直の時に完成（1654）。明治初期にほとんどの施設が取り壊され、享保17年（1732）築の本丸表門、寛文8年（1668）築の旧二の丸隅櫓が残り国重文となっている。表門内部には発掘調査の様子とその成果が解説展示されて

いる。全国唯一の3つの鯨を載せた本丸三階櫓は、『所々御普請年暦』に記録された寸法と明治5年頃に撮影された古写真、そして発掘調査の結果を整合させて平成16年に復元された。本丸辰巳櫓も発掘調査が行われ、同時に復元された。二の丸隅櫓は昭和35年（1960）に解体調査され、本丸鉄砲櫓跡に移築された。本丸石垣は美観を重視した「切込はぎ」技法で積み上げられ、毎年自衛隊員が訓練の一環として石垣の除草を行っている。

新発田駐屯地二の丸発掘調査現場に向かった。今回の発掘調査は明治7年築の白壁兵舎解体移築、資料館建設に伴うもので、古図面により速水某と堀文之丞屋敷跡と推定されている。プレハブの仮設資料館内では自衛隊広報班から、駐屯地と連隊の歴史を解説して頂いた。東日本大震災では南相馬市で災害救助活動を行った。

阿賀野川を渡り沢海の国登録有形文化財北方文化博物館豪農の家を見学した後、新津の新潟県埋蔵文化財センターへ向かう。埋文センターの山本肇先生に展示室の解説を受けた。新潟の発掘調査は高速道路と上越新幹線建設により進み、丘陵地帯や山間部の遺跡が注目されてきたが、最近の一般道事業による調査で平野部地中深くから遺跡が多く発見され注目されている。センターを出て、国史跡古津八幡山遺跡に上った。20年程前の調査により、それまでの戦国期山城説が覆され、弥生時代の高地性環濠集落や前期古墳（4世紀）が確認された。

再びバスに乗り金津の石油の里へ向かった。石油の世界館で中島哲宏先生（友の会事務局長）と小野沢正一先生（同副会長）に合流し、新津油田の歴史について聞いた。明治29年に機械掘りが導入されると産出量が急増し、新津丘陵一帯におい



石油採掘やぐらの遺構

て宝田石油、日本石油、中野興業が3大石油会社と呼ばれた。しかし大正5年(1916)にはピークを迎え、大正末期から昭和初期には枯渇により産油量が激減して衰退した。平成8年(1996)に中野家が採掘を止めた後は、産業化遺産指定も受け、史跡、教育活動の場として整備を進めている。石油採掘施設やオイルサンドを見学して今回の踏査も無事に終了した。

(川崎総合科学高校 阿部 功嗣)

## 地理分科会活動報告

### 「新潟県の地域性の考察」

#### 1. はじめに

新潟県をフィールドにして、下記の行程で夏季野外調査を実施した。3日間、曇り時々雨という天気だったが、行動中はほとんど降られずにすんだ。途中、バスの故障というハプニングもあったが、有意義な野外調査とすることができた。

8月22日(月) 新潟西港、新潟東港 新潟会館泊

8月23日(火) 県立環境と人間のふれあい館、  
昭和電工旧鹿瀬工場、鹿瀬ダム  
やひこ荘泊

8月24日(水) 燕市産業史料館、燕市磨き屋一番館、信濃川大河津資料館、石油記念館

#### 2. 8月22日(月)

新潟駅に11時集合。はじめに「朱鷺メッセ」に移動した。ここは地上125m(31階)に展望台があり、新潟市内だけでなく佐渡島まで望める。幸い天気も晴れて眺望が良く、新潟西港など俯瞰することができた。

13時から新潟港湾事務所で新潟港の概況について説明を受けた。新潟港は、昔から信濃川の河口港になっている西港と、戦後建設された掘込港である東港に分かれている。西港と東港は約15km離れており、港の役割がそれぞれ違っている。

西港は佐渡航路の拠点、漁港になっており、旅客・漁船が中心である。信濃川河口であるため、川底に土砂が堆積しやすい。このため、年間85万㎡の土砂を浚渫している。浚渫の際、戦争中に米軍が敷設した機雷チェックが今でも行っているということだった。

東港はコンテナなど貨物の積み下ろしが中心の港である。近年はロシアの中古車取引制限もあり、対ロシア貿易が激減。現在は韓国・中国・東南アジア航路の外貨コンテナの積み下ろしが中心になっている。また、輸入量が輸出量を上回る状態が続いている。東日本大震災後、取扱量が急増しており、建設資材が目立つということだった。説明後、迫力のあるコンテナ積み込みや、木材チップ積み下ろしなど見学することができた。

#### 3. 8月23日(火)

午前は、福島潟に隣接する「県立環境と人間のふれあい館」(新潟水俣病資料館)を訪れた。四大公害訴訟で知られる「新潟水俣病」はメチル水銀で汚染された阿賀野川の魚を食べ続けたことで中毒になる病気である。脳細胞が破壊され、神経障害がおこり、重症になると死に至る。はじめにビデオで概況を学び、認定患者でもある語り部の山田サチ子さんの体験を聞いた。小さい頃から阿賀野川で獲れた魚を食べていたこと、家族全員が被害にあっていたこと、親が患者だったことを自分に話さなかったこと、熊本水俣病の患者たちと交流していることなど話してくださった。その後、館内の展示を見学した。

午後は、「県立環境と人間のふれあい館」の塚田館長の案内で、阿賀野川上流にあったメチル水銀排出企業である昭和電工の旧鹿瀬工場に向かった。途中、バスが排ガスシステムの故障によりスピードが出せなくなり、ついに「阿賀の里」で代車に乗り換えることになった。おもわぬアクシデントだったが、新潟県の酪農がほこる安田牛乳のヨーグルトを食べることができた。また、7月末の新潟・福島の集中豪雨によって反対車線が崩れた道路を通るなど被害の大きさを知ることができた。

その後は順調に進み、途中下車して工場から阿賀野川に注ぐ排水口を見学。工場内には入れなかったが、車窓から旧鹿瀬工場を見学。最盛期には2,000人以上が働いていたという大工場群を望むことができた。この工場では酢酸や酢酸ビニルの原料であるアセトアルデヒドを生産。その副生物であるメチル水銀を含む廃液を阿賀野川に排出していた。また、廃液中の無機水銀もバクテリアにより有機水銀化することも後に判明している。現在、この工場ではアセトアルデヒド生産をやめて、昭和電工の関連企業(新潟昭和株)がセメン

ト製品を生産している。最後に昭和電工に電力を供給していた鹿瀬発電所を見学。現在でも稼動しており、水量の大きさを感じることができた。

#### 4. 8月24日(水)

午前は、燕市の伝統的金物工業に関連する施設を訪れた。「燕市産業史料館」では、和釘作りより始まる金属産業の歴史、鋳起銅器による職人の技、丸山コレクションの煙管など見学。実際にミニスプーンを作る体験ができた。「燕市磨き屋一番館」では金属製品の最終工程である研磨作業を見学した。この施設は燕市が出資した工場で、研磨作業の技術指導施設にもなっている。現在、いがた県央マイスターに認定された2人の指導者の下で若者たちが研磨作業に取り組んでいる。普段は金属食器やメダルなどの研磨が多いのだが、今では飛行機の翼の表面研磨も行っており、技術の高さを表している。ガラスのように磨かれた美しいビールコップを思わず購入してしまった人もいた。

午後は、「信濃川大河津資料館」を見学。1896年の「横田切れ」とよばれる堤防決壊を契機に、信濃川下流域の洪水を防ぐため、延べ1,000万人を動員して1922年に通水した分水路がある。1927年に自在堰が陥没したが、新しい「可動堰」が1931年に完成して現在に至っている。7月末の豪雨でも分水路放流で活躍している。なお、新しい可動堰が来年完成予定である。



大河津分水にて(左手に分水路の可動堰)

最終見学地になった出雲崎は、江戸時代の佐渡島航路の玄関で、日本において石油掘削の機械方式を最初に使い成功した所である。ここは石油元売最大手のJX日鉱日石エネルギー(ENEOSブランド)の前身である日本石油会社の発祥地でもあ

る。現在、「石油記念館」「天領出雲崎時代館」が併設されている。外にある「石油公園」では天然ガスの噴出の可能性があるということで火気厳禁になっていた。その後、長岡駅で解散した。

(茅ヶ崎西浜高校 新井 隆)

## 倫政現社分科会活動報告

### 2010年度倫理政経現代社会分科会 研究発表会報告

#### (1) はじめに

平成22年度研究発表会は横浜市立横浜サイエンスフロンティア高校にて3月28日の午後に行われました。

大震災の影響で交通事情が良くないにもかかわらず、16名の教員にご参加いただき、研究発表と講演が行われました。人数が少ない中で、かえって活発に質疑応答や議論が行われ、とても有益な研究発表会となりました。

#### (2) 研究発表

三浦臨海高校 金子 幹夫先生

#### 「言語活動の充実に重点を置いた公民科教育」

公民科の日常の授業で、「言語活動の充実」を目指す様々な実践を紹介していただきました。

発表はプロジェクターを用いて行われ、魅力的な授業をしたいと悩む新任教員とベテラン教員が対話をするというスタイルで進められました。

はじめに、授業形態として、一斉授業と協働学習、知識伝達型と体験型学習、どちらを選ぶべきかという問題が取りあげられ、生徒の関心の程度や予備知識の有無などの状況を把握し、それに応じて形態を選択する必要があるという指摘がなさ



れました。

そして、どの形態を選ぶ場合でも、いずれかの場面で体験型学習を取り入れることが有効ではないかとの問題提起がありました。

体験型学習の具体例としては、「みんなで体験！株式会社とお金の仕組み」という教材が取りあげられ、グループ活動で会社経営を疑似体験する実践が紹介されました。

また、体験型学習に関連して、日常的に授業に活かすことができる様々な工夫や方法が紹介されました。配布されたプリントを時系列でファイルすることによって、学習内容や自分の考えをつづった内容、教師のコメントなどがまとめられ、年間を通した生徒の成長記録となるポートフォリオや、新聞の記事をわざと書き換えて、間違い探しゲームの形で楽しみながら記事を読ませ、それをきっかけに内容についての意見を書かせる方法、また、教室の座席をコの字型など様々に組み替えることによる効果など、短い発表時間にも関わらず、日頃から実践されている数多くの工夫や方法を、軽妙な語り口で精力的にお話しいただきました。

参加者からは活発に質問が出され、極めて実践的で有効な優れた実践だという声が多くあがりました。

### (3) 講演

埼玉大学教育学部准教授 桐谷 正信先生

「シティズンシップ教育について

一日米における試みを参考に」



桐谷正信先生は、長年アメリカにおける多文化的歴史教育論を研究され、近年はシティズンシップ教育についても積極的に発言されています。今回の講演では、シティズンシップ教育について、日米の事例をもとにお話しいただきました。

まず、東日本大震災において、自然発生的にボランティア活動が行われている例を引いて、新し

い公共性の可能性に触れられました。

かつての「滅私奉公」のような公共性ではなく、社会との関わり方において、一人ひとりの個性を活かす形で他者とコミュニケーションを結び、平和、人権、福祉などの公共善を実現しようとする、いわば「活私開公」という公共性のあり方に言及されました。

このような資質を身につけるために、アメリカでは、サービスマニッシュメントと呼ばれる社会参加型のシティズンシップ教育が行われていることが紹介されました。サービスマニッシュメントとは、地域社会の課題解決を目指した社会的活動に子どもを積極的に関与させることによって、子どもの市民性（シティズンシップ）を発達させることをめざす教育方法を意味します。そして、このようなシティズンシップ教育の日本での取り組みとして、埼玉県桶川市立加納中学校の実践が取りあげられました。

これは桶川駅東口の商店街を活性化するために、中学生がまちづくりに参加するという実践で、実際に店主や客にインタビューを行ったり、桶川市職員にまちづくりの講義を受けたりした上で、最終的には、桶川駅東口・東口商店街の再開発計画として提案がまとめられ、市役所、商工会、商店会に対する発表が行われました。その内容は、桶川市が実際に計画している再開発プランに非常に近いものであったということです。

シティズンシップ教育は、知的理解と参加技能と市民的態度をバランス良く育成する必要があり、このような社会参加型の実践は優れた方法であるとのこと指摘でした。

シティズンシップ教育の理論と優れた実践に触れることで公民科の授業を考える上に大きな刺激となりました。

### (4) 最後に

発表、ご講演をいただいた2人の先生、ご参加いただいた先生方、こころよく会場をお貸しいただき、優れた施設設備で知られる高校の校内見学にも対応していただいた横浜サイエンスフロンティア高校に御礼申し上げます。

(逗葉高校 斎藤基博)

※この報告は、58号掲載予定でしたが、編集段階の手違いで、59号掲載になりました。関係の方々にお詫びいたします。

## 今後の活動予定

### 歴史分科会

#### <テスト委員会>

今年度より、社会科の県下一斉テストも国・数・英とあわせて11月実施となりました。8月下旬に問題の審査を終え、9月に校正を行います。

#### <史跡踏査委員会>

秋季史跡踏査は、11月中旬に海老名市方面で行われます。おもな見学地は、秋葉山古墳群、相模国分寺となります。その他の見学地、講師等につきましては、決定次第お知らせしますので、多数のご参加をお待ちしております。

#### <研究大会関係>

11月に関東歴史教育研究協議会茨城大会が実施される予定となっていますが、震災の影響もあり、詳細は未定です。また、年度末恒例の歴史分科会春季研究発表大会は、3月5日(月)～9日(金)の週に横浜駅西口かながわ県民センターで開催する予定です。今年度の講演会は、日本史に関する内容となる予定です。会場の予約が6か月前であるため、本稿を作成している9月時点では、日時・講師ともに確定しておりませんが、この部会報をお渡しする10月の秋季研究大会ではお伝えできるものと思います。こちらの方にも、ぜひご参加いただきまますようお願い申し上げます。

### 地理分科会

#### <企画委員会>

2012年3月7日(水)に地理分科会研修会を行います。会場はここ数年利用しているKUポートスクエアで、午後実施をする予定です。東日本大震災から1年になるということで、今年度のテーマは「自然環境と防災(仮題)」です。

例年と同じようにパネラーとして3名の先生をお迎えして、パネルディスカッションを行います。パネラーとして関口圭先生(永谷高校)、能勢博之先生(鶴嶺高校)、米山宏先生(公文国際学園)を予定しています。今回の震災で、いままで想定されていた防災教育は見直されなければならないでしょう。多くの先生方に参加していただき、これからの地理を通じた防災教育について活

発な議論を交わしたいと考えています。

#### <野外調査委員会>

12月9日(金)に東京都品川区を中心にした野外調査を行います。午後からの参加も可能ですので、参加をお待ちしています。詳細は要項をご覧ください。

### 倫理・政経・現社分科会

#### <研究委員会>

公民科に関して、普段の授業の工夫や視野を広げる取り組みなどを情報交換する活動をしています。委員の皆さんが、ちょっとしたアイデアや手がけている取り組みなどを持ち寄って、フリートークするスタイルです。初めて参加された方でもすぐ持ち帰って明日からでも現場で活かせることと思います。気軽に参加できてためになり、できるだけ負担の少ないような委員会をめざしたいと思いますので、多くの方のご参加をお待ちしております。(逗葉高校 斎藤 基博)

#### <テスト委員会>

県下一斉テストの問題作成を行っています。「現代社会」「政治・経済」「倫理」の3科目とも、本年度から実施時期が1月から11月に変更となりました。事前のご案内が不十分で申し訳ありませんでした。作問は、「易しい問題から難しい問題まで幅をもたせる」、「授業内容に沿った問題を多くする」、「11月実施をふまえる」などに留意して行いました。ページ数に限りがあるために大学入試センター試験に十分対応できていないところがあります。今後も多くの学校で採用していただけるよう工夫を重ねてまいりますので、各学校様で採用のご検討をお願い致します。

(新羽高校 峰澤 巧輝)

#### <出版委員会>

現在は、来期の春季大会で、紀要45号を配布するために活動しています。なお原稿を募集中です。2012年3月中までならば掲載が間に合いますので、授業実践報告や研究などを是非お寄せ下さい。(茅ヶ崎高校 三橋 健彦)

#### <教材委員会>

センター試験に倫理・政経が加わりました。こ

れもにらみつ、新課程にむけた教材作りに取り  
かからねば、と考えています。アイデアをお持ち  
の方、教材作成に興味のおありの方、気軽に  
声がけして頂けたらと思います。また、自主教材  
(思想家の生き方を紹介し、そこから何を学びと  
るかを提示するという論文集)作成の方は、原稿  
を元にした勉強会を開いていこうと考えていま  
す。原稿を新規に寄せてくださる方、こちらも募  
集しております。(新羽高校 栗ヶ窪令子)

## 訃 報

### 村田 彰夫先生

元県立相模原高等学校長村田彰夫先生が、去る  
8月19日肺炎のためご逝去されました。享年63歳  
でした。

先生は在職中、長らく社会科部会にあってその  
発展にご尽力され、県高等学校教科研究会会長、  
同社会科部会代表顧問、全国公民科社会科教育研  
究会副会長の要職を歴任されました。また2006年  
度全国公民科社会科教育研究会神奈川大会におい  
ては、実行委員長を務められました。謹んでご冥  
福をお祈りいたします。

(上鶴間高校 落合 隆)

### 木村 邦雄先生

社会科部会で顧問であった木村邦雄先生が本年  
3月12日心不全のため逝去された。81歳。謹んで  
ご冥福をお祈りしたい。

先生は新潟県立十日町高校に2年務めたあと川  
崎市立川崎高校に移り、そこで定年まで過ごされ  
た。昭和39年歴史分科会で川崎の地区委員となっ  
て部会での活動が始まる。先生は実地踏査(のち  
史跡踏査)委員として夏休みを中心に社会科教員  
を率いて出かけられた。コースの下見・講師との  
交渉、高速道路もないころでは交通機関の乗り継  
ぎなど面倒なことも多かった。「神奈川の歴史散  
歩」(昭和46年刊行)の編集にも参加された。ま  
たテスト委員会や海外史跡踏査委員会にも関係さ  
れた。

先生は市立高校の代表として昭和48年部会の副  
部会長に推され8年間つとめた。その間昭和52・  
53年には歴史分科会長をつとめられた。

最近は万葉集の研究をされ「万葉集 東国の世  
界」の(一)を平成18年、(二)を平成21年に刊  
行された。各地の万葉歌碑を実地踏査して多くの  
写真入りで紹介していた。

(顧問 長田 敬幸)

